

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1271300251		
法人名	有限会社 高梨ウェルビーイング		
事業所名	あったかさん		
所在地	千葉県野田市上花輪588		
自己評価作成日	平成27年3月17日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アミュレット		
所在地	東京都中央区銀座5-6-12みゆきビルbizcube7階		
訪問調査日	平成27年3月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節の移り変わりを感じながらゆったりとした時間の中でいきいきと暮らしていただける様見守って行く事を基本姿勢に考えています。
 家族、地域の人達との交流も大切にしていきたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ゆったり、いきいきあったかさん、敬う心と敬う言葉」をホームのスローガンとし、全職員で共有し日々取り組んでいる。今年度はこれまで培ってきた取り組みを継続させ、特に地域住民との交流では、ホーム主催の歌の会には多数の近隣の方が参加されたり、ボランティアで歌謡劇団、傾聴の方々、スタッフの友人等がゼリー作りやパン作りを教えに来所されたり、敬老の日に保育園児が歌を披露する等地域との交流を継続している。また、ケアマネジメントにおいても計画作成担当者を中心に、アセスメントから担当者会議、ケアプランの作成、作成後のモニタリングまでの流れが定まり、適切なケアマネジメントが図られている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の基づきスタッフ一人ひとりが現場で働いている。	事業所は「利用者の安心と尊厳のある生活を自立して営むことができるように支援する」旨の理念を掲げ、スローガンとして「ゆったり、生きいきあったかさん、敬う心と敬う言葉」を定め、住み慣れた町で安心して暮らし続けたいという利用者の思いを大切に全職員で共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方々とは良い関係が続いており、暖かく見守って下さっている。	事業所主催の歌の会には多数の近隣の方が参加されたり、ボランティアで歌謡劇団、傾聴の方々、スタッフの友人等がゼリー作りやパン作りを教えに来所されたり、敬老の日に保育園児が歌を披露する等利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるように、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の福祉行政に参加し、その中で認知症の支援を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今回は行っていません。	運営推進会議においては、今年度未実施という事もあり、今後はあらかじめ計画を策定し、計画的に実施されることが望まれる。	今後に向けては、定期的に運営推進会議が開催できるように、取り組まれることに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の関係者、相談員の方々にご意見や取り組み方を教えて頂きながら行っている。	市高齢者福祉課担当者とは日頃から疑問点を相談するなど、また、市の主催する研修には参加をして接点を深めている。また、2ヶ月に1度介護相談員が来訪され、提供するサービスの改善点への相談やサービスの質的向上につなげるための協力関係を築くことができるよう取り組んでい	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。イスからずり落ちしてしまう家族とは契約を結んでいる。	職員会議・カンファレンスにて身体拘束をしないケアについて確認し、全職員で共有している。現状、玄関の施錠も含め、身体拘束につながる事例は発生していない。	会議等を通して身体拘束や虐待防止について確認しているが、今後に向けては、内部研修として定期的の実施されることに期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ全員が注意を払っている。		

あったかさん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要があれば家族と話し合いをするように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行い、退所時や認知症の進行状態などを理解してもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族にはその都度状況を伝えるようにしている。そして来訪時には出来る限りの要望を聞き、納得のいく対応をしている。	利用者や家族等の意見、要望を聞く機会としては、行事開催時、面会時、ケアプラン説明時等において家族から直接意見を聴取し、できる限りの要望を聴取し、その内容を日報に記載し全員で共有し、吟味のうえそれらを運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員とは色々な意見を聞きコミュニケーションを取りながら働きやすい職場にしている。	全職員が気持ち良く働ける環境作りを目指し、日常的に職員の意見や提案聞くことができる体制を構築し、日頃のコミュニケーションを大切にしながら働きやすい職場環境を構築している。職員からの意見や提案は職員会議で検討し、必要に応じて運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が不満なく働きやすい環境・状況をとっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修を受け、レベルアップを心掛けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ネットワークの交流、市の事業者会議などでサービスの質を向上させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前より、お茶の時間、昼食時の参加、家庭訪問、おためし入居と安心して入居して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居決定前・後でご家族の不安が解消できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族・ケアマネジャー等の話しを伺い必要としていることを見極め、入居して頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人と職員との関係は家族のような形をとり、毎日を過ごしていきたいと思う。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人を支える為に、家族と職員は共働の形をとっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力を得て、人とのふれあいを多くし、外に出る機会を作るようにしている。	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族のご協力を得て、昔に家族と一緒に通ったお店や場所に行ったり、帰宅やお墓参りなどの支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が仲良く生活できる様気を配っている。		

あったかさん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時も今まで通り支援し契約終了後も、しばらくの間は連絡を取りフォローしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや希望は記録・日誌等で把握し、家族と話し合いをし確認させて頂いている。	日頃の会話や表情から一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め、また家族等の協力を仰ぎその把握に努めている。困難な場合は、家族に相談の上、利用者本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族の話しや、ご本人の話し、今まで過ごしてきた環境等を全て把握し対応している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の健康状態・心理状態に気付くように努め、少しの事でも見逃さないよう職員全員で協力している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族とも話し合いながら相談し計画を立てている。	ケアプラン作成時においては、担当者会議を開催し、利用者の現状の課題、今後のケア方針について検討し、検討結果を踏まえケアプランを作成している。ケアプランの状況は毎月モニタリングを行い、3カ月目に総合評価し目標の達成度を確認している。	担当者会議には、かかりつけ医等の意見(他職種連携)も反映し、ケアプランにその意見が反映されると良いであろう。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日の健康状態、心理状態を細かく記録し見直しを立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの24時間の生活を支えるための取り組みをしている。		

あったかさん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会、民生員、ボランティアの方々に協力して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医、ホームドクターとの関係の中で医療を受けられるように支援している	提携先のかかりつけ医により月2回の往診を実施し、適切な医療を受けられる体制となっている。また、通院には職員が同行し利用者の状態を適切に医師に説明している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフは医師の指示や服薬などの細かい注意点を相談しながら支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、本人家族に協力し、病院関係者との関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に方針を説明し、重度化した場合再度ご家族と相談し対応している。	重度化や終末期については、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、理解が得られるように努めている。終末期を迎えた際は、家族、主治医、看護師と共に話し合いその後の方針を決定することとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	感染症・急変時の講習は受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練・避難訓練は行っている。	消防署立会いの下、通報、避難訓練を年2回実施している。また月1回自主訓練も実施している。災害伝言ダイヤルを採用し、災害時における家族への連絡方法を明確にするほか、各居室に利用者用のレインコートや軍手をはじめとした衣類一式を準備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格や生活を尊重しプライドを傷つけぬよう指している。	職員は、「家族的」と「介護サービス」の折合いを肝に銘じ、当事業所のスローガンである「敬う心と敬う言葉」をモットーに一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないように適切な対応を日々図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の気持ちを大切にし何が本当にしたいのか実現できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にしながら楽しい毎日を過ごせる様支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみ、おしゃれ等には気を配っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニュー・買い物・盛り付け・後片付け等、利用者と一緒にしている。	食事の準備では、利用者の意見も反映しメニューを決め、食材の買い物も利用者が同行している。ホーム内でも可能な限り、一緒に準備や片付けを進めている。食事を楽しむ工夫では、時には出前を取ったり、近所の方によるそば打ち、時には外食に出かける等楽しみにつなげている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・栄養・水分量等、一人ひとりの状態に合わせて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケア、義歯のチェックは行っている。		

あったかさん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンをチェックし、トイレ誘導を促している。	「排泄チェック表」により個人ごとの排泄状況を記録し、パターンや習慣を把握し、定時の声かけや誘導により、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	その人に合わせた食事量、やわらかさ、水分調整と体操・散歩等を個々に合わせ工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	血圧や体調により、その日の入浴を決めている。(1日おきくらいで)	入浴には職員が介助につき、利用者の体調を考慮し、1日置きに入浴できるようにしている。毎日の入浴も可能であり、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	全員ではないが昼寝も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	細かい変化を医師に伝え、量の調整等を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ることは必ずやって頂き、身体を動かし気分転換を図る。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩は毎日行い、買い物やドライブにも出かけている。	朝夕の2回30分程度、事業所周辺を散歩するほか、買い物、公園散策、市役所の展示会、地域のお祭り、運動会、ドライブ、外食などへ定期的に出かけ、戸外活動の充実につなげている。また家族と一緒に、自宅やお墓参りなどへの外出や外食も行っている。	

あったかさん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している人もいるが使ってはいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はその都度対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光と風が入ってくる空間作りをしている。ウッドデッキや外で過ごす事もある。	玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮し、行事で撮影した写真や装飾品の掲示、生花を置いて生活感や季節感を醸し出し、居心地よく過ごせるような工夫を図っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆様ホールで過ごされることが多い。1日1度は外で日光浴をする。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	あまり自分の物は置いていないが、安心して過ごせる様工夫している。	居室は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたタンス、家具、好みのものの持ち込みを可能とし、清掃や整理整頓により清潔感を保ち、利用者が居心地よく過ごせるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「できること」を見つけ出し、自立した生活を送って頂くよう見守っている。		